

水はけの良い水田に

新たな暗渠排水整備に取り組んでいます

7月31日（金）、経営体育成基盤整備事業第2内山地区（宮崎市高岡町）において、県の農業土木職員を対象に現場見学会を行いました。

今回工事では、浅層引込暗渠工法（シートパイプ工法）と呼ばれる県内の県営事業では初となる工法を採用しており、職員のスキルアップと工法の普及を目的に開催したものです。

地区内の水田は、ほ場表面も透水性が低い土質であるため、従来の工法と比べ、暗渠排水管の配置間隔が密で、埋設深さも浅いことが特徴の本工法を採用したものです。

また、ブルドーザーが牽引する穿孔機により管を引き込む工法であり、田面の掘削を伴わないため、田面の傷みが少なく、施工速度も早いといったメリットもあります。

施工後の水田では、すでに水稻作付が始まっており、排水効果の検証はこれからですが、農家さんからは、「施工前までは機械の乗り入れが困難だった箇所にも機械が入れるようになった。」といった声も聞かれ、これまで湿田に悩まされてきた本地区においても、今後、乾田化が図られ、農作業の効率化や反収の増加といった事業効果が発現するものと期待しています。

